

読売歌壇

小池 光選

ガザの兒とウクライナの兒の映像が流れる夕餉
皆寡黙なり
東村山市 伊藤美津子

【評】いろいろのところで戦争、紛争が起きて普通の市民が殺されている。子供たちの犠牲も相次ぐ。そのニュースを聞きながらの夕餉。話す言葉もない。ただ黙々と食べるのみ。陽だまりの三毛猫眠るボンネット乗るに乘れず
川越市 中沖 稔

【評】これはまたころ優しい人。車のボンネットで気持ち良さそうに猫が寝ているので、車が出せない。きょうは駅まで歩くことになった。まあ健康のためにはその方がいいかも。「惚けたかも」息子に言へば氣にもせず俺の名前を言ってみなと言ふ
栃木市 大森由紀子

【評】思わず笑ってしまう一首。まさか息子の名前を忘れたわけでない。短歌を作れるくらいだからまだしばらくは大丈夫。もう行っていいよと鳥のような眼で咬ける母
長野市 伊藤 恵子

白き壁に囲まれて
冷飯に冷汁かけて朝餉とす寒き朝なり能登を思へる
四街道市 須崎 輝男

「世話なしでいいね」と二人強がるも孫らの来ない正月淋し
年が明けわが持ち時間考える遊び足りない子供のように
京都市 畠中 幸代

給料で買ったお花を飾ったよ啄木さんのような気持ちで
鳴門市 楠井 花乃

初めてのつかいかいのようにわが夫は何度も何度も復唱して行く
芦屋市 宮本 允子

犬二匹連れて散歩し犬二匹の人と会話す今日の終はりぬ
霧島市 秋野 三歩

栗木 京子選

被災地の取り残されし門松よ無念とばかりに無残に傾ぐ
東松山市 蕨沢 明德

【評】元日に起きた能登半島地震。傾いたままの門松は、晴れやかな日常が突然に奪われた事実を突きつける。「無念」「無残」の二つの言葉が被災者の心情を代弁している。能登地震にかつての神戸を思ひ出づ寒き避難所眠れぬ日々を
神戸市 藤崎 正彦

【評】一九九五年の阪神淡路大震災も寒い一月に発災したのであった。そのとき作者は避難所での生活を送ったのであろう。歳月を経ても消えない苦しみの記憶に胸が痛む。電線がびいーんと唸る曇天に雪の降り積む能登の記事読む
鹿嶋市 大能佳世子

【評】被災地の天候が穏やかでありますように、と祈る日々。電線の鳴る「びいーん」という音が不安をかき立てて、印象に残る。元日に地震のニュース聞きながら賀状を読むさえころ苦しき
甲府市 高瀬 孝人

若き日に輪島の浜でながめたる星に祈りぬ「ガンバレ」被災地
前橋市 五十嵐十一

朝市のあのおばちゃんも避難所に居るや寒さと余震に耐へて
鴻巣市 渡辺 照夫

スーパーで求めし七草刻みつつ本当の平和は本当にあるか
松江市 犬山 純子

俵 万智選

握った開いたりして不思議だらうそれはお前の世界をつくる
金沢市 塩本 抄

【評】赤ちゃんが自分の手を不思議そうに眺めるのは、よく観察されることだが、希望に満ちた下の句への展開が素晴らしい。手と言わないことで、想像がいっそう掻き立てられる。一枚の葉もなきいちやうの並木道遠近感が夏とは違ふ
匝瑳市 椎名 昭雄

【評】葉が繁っていけば、光や風が伝えてくる情報も多い。遠近感という語が効いて、夏と冬の二枚の風景画を並べたような読後感だ。式を書くだけでももらえる部分点みたいなきみの博愛だった
八王子市 吉村のぞみ

【評】100点ではないが0点でもない。部分点の比喩がユニークだ。ポケットの丸めた手袋出すようにそんな約束したつげと言ふ
高島市 宮園佳代美

それは罅ではなくて貫入とふたりの日々にかけての釉薬
横浜市 紺屋 小町

地球儀を強く回して大陸も海も水もひとつの色に
松原市 たりりずむ

訓練で机の下に潜るたび戻りたくない自分に気づく
横浜市 富尾 大地

黒瀬 珂瀾選

被災地に残りし人に背を向けて避難するわれ足どりの重し
金沢市 野畑 政行

【評】能登から金沢へ避難されたのだから。顔見知りと別れ、土地を離れるその辛さはいかほどか。日常の回復を願うばかりです。AIの予想通りに駒を打ち「流石ですね」と言われてる棋士
吉野川市 喜島 成幸

【評】人間とAIの競争が様々に進んでいるがそれが本当に社会に幸福を招くのか少し疑問だ。将棋の対局の「コマ」だらう。解説者の一言に現代的な違和感を覚えたという一首。吊り落とす大技決めし千代の富士も負けつぶり良き寺尾も逝けり
東京都 上原 厚美

【評】元閏脇の寺尾が昨年末、六十歳の若さで逝去。盛大に負けることができるのも強い力士の証拠です。平成元年の九州場所、千代の富士との激しい取組を思い返す、哀悼の歌。思い出を作ってくれた亡き家族に感謝し生きる
平塚市 原 道雄

と涙の被災者
湯豆腐をくずさぬように掬うと骨を壺へとはこぶ さよなら
埼玉県 鈴木えみ子

背後よりおみなごの頸を撃ち抜きし敵機の影を父は拭えず
東京都 富見井高志

いくたびも子の亡骸をぐるぐるくと哭きつつ廻る
泉佐野市 向井克之介

◇投稿規定◇ はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、日本橋郵便局留、読売歌壇(俳)壇、〇〇先生(希望選者名)係または読売新聞オンラインから ◇毎週月曜日に掲載 右の影絵はいりならず